

〈小学校〉平成30年度全国学力・学習状況調査に係る結果

飯綱町教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

- (1) 文部科学大臣は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図るために、平成30年4月17日、小学校6学年を対象に本調査を実施しました。
- (2) 飯綱町教育委員会、学校は、自らの教育の結果を把握し、指導の改善に向け有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、学力の一部であり、学校が教育活動全体で育てている学力は、これ以外にも多くあります。

2 飯綱町教育委員会としての方針

- (1) 飯綱町教育委員会は、学力及び生活実態等について、結果の分析を行い、町全体の傾向を文書表現でまとめて公表することにより、保護者等に本町の実態を理解していただきます。
※ 数値の公表は、学校序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この本来の調査の目的にそぐわないので行いません。
- (2) 飯綱町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

3 調査問題の趣旨・内容

- (1) 国語A、B、数学A、B、理科
※ Aは知識、Bは活用に関する問題を出題。理科は知識を主として活用の問題も一体的に出題。
A（知識）
生徒が身に付けておかなければ、以後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題で構成されています。
B（活用）
知識（A問題）を、実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などを問う問題で構成されています。
- (2) 質問紙調査
学校や家庭での学習や生活実態等について、生徒が、いくつかの選択肢の中から選んで答える問題で構成されています。

4 飯綱町立小学校参加児童数

国 語		算 数		理 科	質問紙調査
A（知識）	B（活用）	A（知識）	B（活用）		
78人	78人	78人	78人	78人	78人

5 飯綱町の状況

調査内容	町全体の 平均正答率	考 察 〈領域別平均正答率から 成果や課題〉
国語 A (全 12 問)	全国平均と 同じ	<p>「話すこと・聞くこと」は、正答率は 8 割以上でしたが全国平均をやや下回りました。</p> <p>「書くこと」「読むこと」も全国平均をやや下回りました。登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることに課題が見られます。</p> <p>「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、全国平均をわずかに上まわりました。慣用句の意味を理解し使うこと、漢字を文の中で正しく使うことは身につけています。</p>
国語 B (全 8 問)	全国平均より やや低い	<p>「話すこと・聞くこと」は、全国平均をやや下回りました。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られます。</p> <p>「書くこと」「読むこと」は、全国平均をやや下回りました。推薦するためには、他のものと比較して書くことでよさが伝わること、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がみられます。</p>
算数 A (全 14 問)	全国平均より 低い	<p>「数と計算」は全国平均をやや下回り、「量と測定」は全国平均より低い結果でした。少数の除法の意味について理解すること、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がみられます。</p> <p>「図形」は全国平均より低い結果となり、円周率の意味について理解することに課題が見られます。「数量関係」は全国平均をやや下回り、折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることに課題が見られます。</p>
算数 B (全 10 問)	全国平均より やや低い	<p>「数と計算」は全国平均とほぼ同じで、「量と測定」「図形」は全国平均よりやや低い結果でした。</p> <p>「数量関係」は全国平均を下回りました。メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈しそれを記述すること、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることなど、日常生活の事象を、グラフの特徴を基に複数の観点で考察したり表現したりすることに課題が見られます。</p>
理科 (全 16 問)	全国平均より やや低い	<p>「物質」「生命」は全国平均とほぼ同じで、「エネルギー」「地球」は全国平均よりやや低い結果でした。「生命」は正答率が 7 割以上でした。自然事象に関心があり、知識・理解が高い様子が見られます。「エネルギー」では、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することは全国平均をやや上回りました。しかし、実験結果から電流の流れ方についてより妥当な考えに改善することなど、学んだことを基にし、目的に合ったものづくりに適用することに課題が見られます。「地球」は川の増水による土地の変化や、上流側の天気と下流側の川の水位について分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られます。</p>

質問紙調査

6 小学校質問紙調査

質問紙調査から、学校や家庭での生活実態について、主な結果を掲載しています。

※表の見方

□全国の欄に示している割合（％）は、「いつも」している」「どちらかといえば（時々）している」と答えた児童（公立）の割合を示しています。

□飯綱町の欄に示している「高い+6%以上」「やや高い+3%」「ほぼ同じ+-3%以内」「やや低い-3%」「低い-6%以上」という言葉は、全国の割合に比べて、飯綱町がどうであるかを示しています。

1 起床・就寝・朝食

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	毎日、同じくらいの時刻に起きている	88.8	ほぼ同じ
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	77.2	高い
③	朝食を毎日食べている	94.5	ほぼ同じ

2 家族・地域とのふれあい

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている	80.5	ほぼ同じ
②	今住んでいる地域の行事に参加している	62.7	高い

3 家庭学習

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たり1時間以上勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	66.2	低い
②	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たり30分以上読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	41.1	高い
③	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.6	やや高い
④	家で、学校の宿題をしている	97.1	ほぼ同じ
⑤	家で、学校の授業の予習・復習をしている	62.6	低い
⑥	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	69.9	やや低い

4 放課後、週末の過ごし方（複数回答問題 上位5位までを記載）

	内 容	全国(%)	飯綱町
放課後の過ごし方	① 家でテレビやDVDを見たりゲームをしたり、インターネットをしている。	81.0	ほぼ同じ
	② 家族と過ごしている	67.1	高い
	③ 家で勉強や読書をしている	64.1	やや高い
	④ スポーツをしている	47.2	ほぼ同じ
	⑤ 友だちと遊んでいる	74.5	低い
週末の過ごし方	① 家でテレビやDVDを見たりゲームをしたり、インターネットをしている。	82.4	ほぼ同じ
	② 家族と過ごしている	80.7	ほぼ同じ
	③ 家で勉強や読書をしている	58.1	高い
	④ 友だちと遊んでいる	63.6	低い
	⑤ スポーツをしている	43.4	ほぼ同じ

5 算数・理科に関する意識等

	内 容	全国(%)	飯綱町
①	算数の勉強は好きである	64.0	やや低い
②	算数の授業の内容は良く分かる	83.4	高い
③	算数の問題が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	78.4	ほぼ同じ
④	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	78.5	やや高い
⑤	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	90.3	ほぼ同じ
⑥	理科の授業は好きである	83.5	高い
⑦	理科の授業の内容は良く分かる	89.4	高い
⑧	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある	87.0	高い
⑨	今、社会のことがらや自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」などと思う	82.0	高い
⑩	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている	54.5	高い
⑪	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う	26.1	やや高い
⑫	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	72.9	高い

6 授業・自尊意識・規範意識・将来に関する意識等

	内 容	全国 (%)	飯綱町
①	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	76.7	高 い
②	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	61.0	高 い
③	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	77.7	ほぼ同じ
④	新聞を週1回以上読んでいる	19.9	ほぼ同じ
⑤	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	86.2	やや低い
⑥	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	63.8	やや高い
⑦	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	49.9	ほぼ同じ
⑧	自分にはよいところがある	84.0	ほぼ同じ
⑨	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	85.3	やや高い
⑩	将来の夢や目標を持っている	85.1	やや高い
⑪	人の役に立つ人間になりたいと思う	95.2	ほぼ同じ
⑫	学校の決まりを守っている	89.5	高 い
⑬	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.8	ほぼ同じ

7 調査の結果について

1 起床・就寝・朝食

基本的な生活習慣については、児童のほとんどが良好な結果となっております。

特に「就寝」は全国平均を上回っており、規則正しい生活習慣が身に付いているものと考えられます。また、「朝食を毎日食べている」も全国平均とほぼ同じではありますが、高い数値となっております。引き続き、家庭と学校との良好な連携が必要ではないかと考えます。

2 家族・地域とのふれあい

「今住んでいる地域の行事に参加している」の問いに、昨年同様、全国平均を大きく上回っており、郷土愛に深い関係が築けていて、良好な結果ではないかと考えます。

3 家庭学習

「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たり30分以上読書をする」と「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」の問いに、それぞれ全国平均を上回っています。一方で、「学校の授業時間以外に、平日(休日)、1日当たり1時間以上勉強する」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を

使いながら学習している」の問いに、それぞれ全国平均を大きく下回っています。

この結果から予習、復習に時間をかける児童が少ないことがわかります。放課後、週末の過ごし方の問いでは「家で勉強や読書をしている」が上位から3番目にあり、勉強はしているが取り組む時間が少ないのではと思われます。自分に必要な内容を考えて取り組んだり、授業と繋がる家庭学習となるように内容や指導を工夫したりする必要があると考えます。

4 放課後・週末の過ごし方

「家でテレビやDVDを見たりゲームをしたり、インターネットをしている」「家族と過ごしている」「家で勉強や読書をしている」が放課後・週末ともに上位に入っています。「友だちと遊んでいる」の問いには、放課後・週末ともに全国平均を大きく下回っています。「家で」何かをやっていることが上位に入っており、家でメディア等をして過ごしている児童が多いのではないかと考えられます。

中学校同様に、ゲームやインターネットの視聴時間と成績との影響における因果関係は不明確ですが、身体への影響も考えると家庭での使用ルールや学校での情報モラル教育が重要ではないかと考えます。

5 算数・理科に関する意識、授業・自尊意識・規範意識・将来に関する意識等

・「算数の内容は良く分かる」児童は全国より高い結果となっています。しかし「算数の勉強は好き」な児童は全国平均をやや下回っています。「問題が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」の問いは、やや上回っています。

・「理科の勉強は好き」「理科の内容は良く分かる」児童は全国より高い結果となっています。

・「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」「今、社会のことがらや自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」などと思う」「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」の問いは、全国平均を大きく上回っており「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の問いも、全国平均を上回り、理科の授業に意欲的に取り組む姿勢が見られました。

・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」の問いに、全国平均を大きく上回っています。この結果から自分で考え、物事に取り組む姿勢や意欲の高さがうかがえます。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」は全国平均でしたが、話し合い活動により課題の解決に向けて主体的に取り組む児童が多いこともうかがえます。

・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」が「新聞を週1回以上読んでいる」より高い結果となっています。インターネット等を利用すると自分の欲しい情報がすぐ手に入る社会ですが、それにより情報の偏りもおこってきます。多角的に物事を考える機会を持つために、新聞に親しむことも大事ではないかと考えられます。

・「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の問いは、8割以上の児童が自己肯定感をもっていることがうかがえます。

今後も児童に寄り添いながら家庭でも学校でも指導することが重要ではないかと考えます。